社会

出 題 の 傾 向

地理、歴史、公民の３分野から総合的に出題しています。形式的には各分野別に大問を設定しているように見えますが、各分野を総合的な面からとらえており、かたよった学習や単なる知識の断片の暗記に終わらず、総合社会として学習しているかどうかを確認できるよう出題しています。ただし、出題している内容は必須事項ですので、教科書や資料集などで基本事項を丁寧に整理し、そして総合的に内容を理解し、さらに正確に表現できるまでの受験準備を心がけてください。

2026 今年度の出題と解説

今年度の入学考査は、①日本地理、②世界地理、③歴史、④公民の順で出題しました。地理分野、歴史分野、公民分野ともに出題形式には大きな変化はなく、問い方や考え方は毎年できるだけ同じ形式になるよう出題を心がけています。今年度の問題傾向と誤答例などについて、気づいた点を下記に分野別で示しておきます。

①日本地理

日本地理は、比較的解答しやすい問題であったように思います。そのため、正答率も全体的に高くよくできていました。少し、正答率が低かった問題を紹介しておきます。

問６は都道府県名と県庁所在地名の一致しないものをすべて選ぶ問題でした。近年では、毎年出題している問題で、是非完答してほしい基本的な問題でした。２つだけだったのですが、他のものまで選んでいる解答もありました。

問７の「やませ」を答える問題は、「からっ風」という誤答が多かったです。問いに湿った北東の風と書いてあるところにも着目しましょう。次に、よく出題される問10の雨温図の問題です。降水量が多いなどの特徴から判断しなければならない問題でした。雨温図に関しては、日本地理・世界地理に関わらず毎年出題されることが多いので学習しておくと良いでしょう。

②世界地理

出題傾向としては、各国の地理的な特徴を［表］から読み取り、その国の場所、更にその国の様子を一致させる問題でした。解き方としては、まず［説明文］を読んで４つの国を導き、地図を見てその国を結びつけた後、［表］を読み取り各国の特色の中からヒントになる項目に注意し、その項目の数値に近いものより、空欄の国を特定するという手順で解答していく手法が有効です。今回は国土面積・人口に占めるイスラム教徒の割合・風力発電・森林の面積・肉類の農産物自給率・国内総生産(GDP)についてでした。今後も、１つのテーマ［農牧業・資源（林水産・エネルギー・鉱物）・工業製品など］について出題されると考えられます。そのため教科書で学んだ基本事項を地図や地図帳の表・資料などと照らし合わせて総合的にまとめていく学習法が有効です。今回の問題では、説明文と主な国の特徴の一致ができていない受験生が多くみられました。特に（う）の正答率が低かったです。

問２は、毎年出題されている時差を求める問題でした。時差に関する問題は、毎年出題されますので、解けるようにしておきましょう。今回は、エジプトのカイロと日本(東経135度)の時差を聞く問題でした。正答率は比較的高かったです。

③歴史分野

今年度は、古代から現代までの歴史をＡ～Ｈの各文で幅広く出題しました。問われた内容のほとんどが歴史上の人物や重要用語であり、比較的よく出来ていました。しかし、記述問題では漢字の間違いが目立ちました。誤答例として、問１（２）の「大宝律令」が「太」」になっている。（４）の「桓武天皇」の間違いなど思い込みで覚えてしまっている可

能性があります。問２の聖徳太子に関する問いですが、冠位十二階や遣隋使の用語は覚えているが、内容に関しては把握できていないために起こる誤答が目立ちました。正誤の組み合わせを選ぶ問いでしたが、冠位十二階は家柄によらずに官位をあたえる。また小野妹子を百済ではなく隋に派遣でした。「誤・誤」を選ぶのは難しいのですが、しっかり自信をもって選んでほしいと思います。その他、正答率が低かった問題としては、問３の天智天皇の内容についての問でした。それぞれの人物の功績や人物名を覚え間違えていた受験生が多いようです。文章をよく読んで答えましょう。問８の文化史に関する問いですが、比較的に正答率は高かったです。教科書などに載っている写真なども見ておくようにしましょう。よく文章を読めば、過去にも出題されている歴史用語が、キーワードであることに気が付くと思います。例年、文化史・世界史・近現代史を苦手とする受験生が多いように感じます。今後もこういった受験生が苦手とする分野の出題はありますので、古代から現代までをまんべんなく学習するように心がけてください。また、高得点をとるためには、日本史・世界史の各時代の内容整理（政治史・文化史）とともに、学習し理解した内容を、必ず漢字で正確に表現できるよう日頃から心がけて学習を進めておきましょう。今後もこの形式の出題は続きますので、問題をしっかり読むように心がけましょう。

4公民分野

今年度も、新聞の社説からの出題でした。全般的にはよく出来ていましたが、問３の「議院内閣制」を答える問が正答率が低かったです。「議員」としている誤答も見受けられました。「議院」という言葉は、改めて意識しておきましょう。問５の「男女雇用機会均等法」を答える問題も、漢字ミスによる間違いが多かったです。問９は、グラフから各国の国民総生産(GDP)の成長率を読み取る出題でした。問10は、毎年出題している表題を選ぶ問題です。これは文章をしっかりと読まなければ解けない問題となっています。

憲法や三権（国会・内閣・裁判所）について基本的な事項をしっかり押さえておく必要があります。また、経済・金融・社会保障などの分野の問題もよく出題しています。このような問題に対応するためには、近年の国内、国際面でのニュースに常に関心を持ち、教科書の基本事項を理解し、正確に表現・選択できるよう日頃から心がけて学習しておきましょう。

対策とアドバイス

今年度の入試は、1日本地理、2世界地理、3歴史、4公民の出題でした。この出題形式は来年度も継続する予定です。多少出題傾向は変化するかもしれませんが、教科書や資料集などを中心とした出題に変化はありません。今後も基本問題を中心に出題していきますが、「基本」は決して簡単というわけではありません。単なる暗記で対応できる問題だけではなく、理解をしているかどうかに重点をおいた出題を常に心がけています。まず1日本地理では、地図、都道府県の農牧林水産業や工業の様子などを理解しておきましょう。2世界地理では、地図、世界の国々・地域の特徴などを理解しておきましょう。また、時差の計算はできるようになっておきましょう。地理分野では、統計・グラフ等は必ずチェックしておいてください。3歴史では、教科書や資料集などにのっている歴史的な作品や図・資料は必ずチェックしておいてください。4公民では、最近の出来事にも関心を持ち、日頃からニュースなどにも興味をもつことが重要です。また用語・人物名など漢字で書けるようにしておきましょう。どの分野においても、教科書・資料集などで基本事項をしっかり整理し理解を深めれば、高得点をとる事ができるでしょう。